

大手ポンプ場点検表

舞鶴市

主ポンプ設備
ポンプゲート形水中モータポンプ

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	雨水ポンプ	番号(号機)	No.1	機種形式	横軸水中軸流ポンプ
-----	--------	-----	-------	--------	------	------	-----------

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年 点 検								
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
全 般		主ポンプ全般		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				異常音	—	S	(S)	S	—	—	異常音がないこと。			
				塗装	—	—	E	—	—	X	塗装の剥離や劣化のないこと。			
				発錆、汚れ	—	—	E	—	—	C	錆・汚れがないこと。			
				振動(振幅)	—	—	—	—	—	M	異常な振動がないこと。			
水 中 ポ ン プ 本 体	致	ケーシング		腐食	—	—	E	—	—	E	異常な腐食がないこと。			
				摩耗	—	—	E	—	—	E	異常な摩耗がないこと。			
				吊り金具	—	—	E	—	—	E	著しい変形、摩耗、欠損がないこと。			
				ボルト・ナット	—	—	H	—	—	H	ボルト・ナットに緩みがないこと。 を確認する。			
	致	インペラ		腐食	—	—	E	—	—	E	異常な腐食がないこと。			
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。			
				欠損	—	—	E	—	—	M	著しい変形、摩耗、欠損がないこと。			
	致	メカニカルシール		油量、質	—	—	—	—	—	X	適正油量であり、劣化していないこと。			
				摩耗	—	—	—	—	—	X	異常な摩耗がないこと。			
	致	電動機		絶縁抵抗	—	M	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。		○	
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				腐食	—	—	E	—	—	W	異常な腐食がないこと。			
				入力電流	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以内であること。		○	
				電圧	—	M	(M)	M	—	M	定格電圧付近であること。		○	
	致	軸受		摩耗	—	—	—	—	—	X	異常な摩耗がないこと。			
	致	軸		腐食	—	—	—	—	—	W	異常な腐食がないこと。			
				摩耗(スリーブ)	—	—	—	—	—	M	異常な摩耗がないこと。			
	致	キャブタイヤケーブル		損傷、劣化	—	—	E	—	—	X	著しい損傷・劣化がないこと。			
	致	ケーブルベア		損傷、劣化	—	E	E	—	—	X	著しい損傷・劣化がないこと。			
				ボルト・ナット	—	—	E	—	—	E	緩み、脱落がないこと。			
	致	サーマルプロテクタ		導通	—	—	—	—	—	X	導通チェックし動作すること。			
	致	浸水検知器		導通	—	—	—	—	—	X	導通チェックし動作すること。			
中 継 端 子 箱		中継端子箱		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
流 入 水 路		流入水路		土砂の堆積	—	M	M	—	—	C	ポンプ運転に支障となる土砂堆積がないこと。		○	
				汚れ	—	—	E	—	—	C	ひどい汚れがないこと。			
				水位	—	E	M	E	—	M	運転時、運転可能水位以上であること。			

装 置 区 分	※1 の装 特置 性・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点							
逆 流 防 止 弁		弁体		腐食	—	—	E	—	—	E	腐食・錆のないこと。			
				変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
		弁軸		腐食	—	—	E	—	—	E	腐食・錆のないこと。			
				回転の滑らかさ	—	—	—	—	—	D	カジリ、摩耗がないこと。			
		水密部		ゴム漏水	—	—	—	—	—	E	水密ゴムからの漏水がない こと。			
				ゴムの変形、損傷	—	—	E	—	—	X	水密ゴムの変形、損傷が ないこと。			
				ゴム取付ボルトナットの 脱落	—	—	E	—	—	T	脱落がないこと。			
				ゴム押え板の変形	—	—	E	—	—	E	著しい変形がないこと。			

主ポンプ設備
ポンプゲート形水中モータポンプ

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	雨水ポンプ	番号(号機)	No.2	機種形式	横軸水中軸流ポンプ
-----	--------	-----	-------	--------	------	------	-----------

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	検							
全 般		主ポンプ全般		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				異常音	—	S	(S)	S	—	—	異常音がないこと。			
				塗装	—	—	E	—	—	X	塗装の剥離や劣化のないこと。			
				発錆、汚れ	—	—	E	—	—	C	錆・汚れがないこと。			
				振動(振幅)	—	—	—	—	—	M	異常な振動がないこと。			
水 中 ポ ン プ 本 体	致	ケーシング		腐食	—	—	E	—	—	E	異常な腐食がないこと。			
				摩耗	—	—	E	—	—	E	異常な摩耗がないこと。			
				吊り金具	—	—	E	—	—	E	著しい変形、摩耗、欠損がないこと。			
				ボルト・ナット	—	—	H	—	—	H	ボルト・ナットに緩みがないこと。を確認する。			
	致	インペラ		腐食	—	—	E	—	—	E	異常な腐食がないこと。			
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。			
				欠損	—	—	E	—	—	M	著しい変形、摩耗、欠損がないこと。			
	致	メカニカルシール		油量、質	—	—	—	—	—	X	適正油量であり、劣化していないこと。			
				摩耗	—	—	—	—	—	X	異常な摩耗がないこと。			
	致	電動機		絶縁抵抗	—	M	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				腐食	—	—	E	—	—	W	異常な腐食がないこと。			
				入力電流	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以内であること。		○	
				電圧	—	M	(M)	M	—	M	定格電圧付近であること。		○	
	致	軸受		摩耗	—	—	—	—	—	X	異常な摩耗がないこと。			
	致	軸		腐食	—	—	—	—	—	W	異常な腐食がないこと。			
				摩耗(スリーブ)	—	—	—	—	—	M	異常な摩耗がないこと。			
	致	キャブタイヤケーブル		損傷、劣化	—	—	E	—	—	X	著しい損傷・劣化がないこと。			
	致	ケーブルベア		損傷、劣化	—	E	E	—	—	X	著しい損傷・劣化がないこと。			
				ボルト・ナット	—	—	E	—	—	E	緩み、脱落がないこと。			
	致	サーマルプロテクタ		導通	—	—	—	—	—	X	導通チェックし動作すること。			
	致	浸水検知器		導通	—	—	—	—	—	X	導通チェックし動作すること。			
中 継 端 子 箱		中継端子箱		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
流 入 水 路		流入水路		土砂の堆積	—	M	M	—	—	C	ポンプ運転に支障となる土砂堆積がないこと。		○	
				汚れ	—	—	E	—	—	C	ひどい汚れがないこと。			
				水位	—	E	M	E	—	M	運転時、運転可能水位以上であること。			

装 置 区 分	※1 の装 特置 性・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点							
逆 流 防 止 弁		弁体		腐食	—	—	E	—	—	E	腐食・錆のないこと。			
				変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
		弁軸		腐食	—	—	E	—	—	E	腐食・錆のないこと。			
				回転の滑らかさ	—	—	—	—	—	D	カジリ、摩耗がないこと。			
		水密部		ゴム漏水	—	—	—	—	—	E	水密ゴムからの漏水がないこと。			
				ゴムの変形、損傷	—	—	E	—	—	X	水密ゴムの変形、損傷がないこと。			
				ゴム取付ボルトナットの脱落	—	—	E	—	—	T	脱落がないこと。			
				ゴム押え板の変形	—	—	E	—	—	E	著しい変形がないこと。			

主ポンプ設備
ポンプゲート形水中モータポンプ

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	雨水ポンプ	番号(号機)	No.3	機種形式	横軸水中軸流ポンプ
-----	--------	-----	-------	--------	------	------	-----------

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年								
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
全 般		主ポンプ全般		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				異常音	—	S	(S)	S	—	—	異常音がないこと。			
				塗装	—	—	E	—	—	X	塗装の剥離や劣化のないこと。			
				発錆、汚れ	—	—	E	—	—	C	錆・汚れがないこと。			
				振動(振幅)	—	—	—	—	—	M	異常な振動がないこと。			
水 中 ポ ン プ 本 体	致	ケーシング		腐食	—	—	E	—	—	E	異常な腐食がないこと。			
				摩耗	—	—	E	—	—	E	異常な摩耗がないこと。			
				吊り金具	—	—	E	—	—	E	著しい変形、摩耗、欠損がないこと。			
				ボルト・ナット	—	—	H	—	—	H	ボルト・ナットに緩みがないこと。 を確認する。			
	致	インペラ		腐食	—	—	E	—	—	E	異常な腐食がないこと。			
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。			
				欠損	—	—	E	—	—	M	著しい変形、摩耗、欠損がないこと。			
	致	メカニカルシール		油量、質	—	—	—	—	—	X	適正油量であり、劣化していないこと。			
				摩耗	—	—	—	—	—	X	異常な摩耗がないこと。			
	致	電動機		絶縁抵抗	—	M	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				腐食	—	—	E	—	—	W	異常な腐食がないこと。			
				入力電流	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以内であること。		○	
				電圧	—	M	(M)	M	—	M	定格電圧付近であること。		○	
	致	軸受		摩耗	—	—	—	—	—	X	異常な摩耗がないこと。			
	致	軸		腐食	—	—	—	—	—	W	異常な腐食がないこと。			
				摩耗(スリーブ)	—	—	—	—	—	M	異常な摩耗がないこと。			
	致	キャブタイヤケーブル		損傷、劣化	—	—	E	—	—	X	著しい損傷・劣化がないこと。			
	致	ケーブルベア		損傷、劣化	—	E	E	—	—	X	著しい損傷・劣化がないこと。			
				ボルト・ナット	—	—	E	—	—	E	緩み、脱落がないこと。			
	致	サーマルプロテクタ		導通	—	—	—	—	—	X	導通チェックし動作すること。			
	致	浸水検知器		導通	—	—	—	—	—	X	導通チェックし動作すること。			
中 継 端 子 箱		中継端子箱		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
流 入 水 路		流入水路		土砂の堆積	—	M	M	—	—	C	ポンプ運転に支障となる土砂堆積がないこと。		○	
				汚れ	—	—	E	—	—	C	ひどい汚れがないこと。			
				水位	—	E	M	E	—	M	運転時、運転可能水位以上であること。			

装 置 区 分	※1 の装 特 置 性・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点							
逆 流 防 止 弁		弁体		腐食	—	—	E	—	—	E	腐食・錆のないこと。			
				変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
		弁軸		腐食	—	—	E	—	—	E	腐食・錆のないこと。			
				回転の滑らかさ	—	—	—	—	—	D	カジリ、摩耗がないこと。			
		水密部		ゴム漏水	—	—	—	—	—	E	水密ゴムからの漏水がないこと。			
				ゴムの変形、損傷	—	—	E	—	—	X	水密ゴムの変形、損傷がないこと。			
				ゴム取付ボルトナットの脱落	—	—	E	—	—	T	脱落がないこと。			
				ゴム押え板の変形	—	—	E	—	—	E	著しい変形がないこと。			

扉体、戸当り ローラーゲート(扉体、戸当り)

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、早急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

※2 点検・整備方法(()書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

施設名	大手ポンプ場	機器名	ゲート	番号(号機)	No.1	機種形式	ローラーゲート
-----	--------	-----	-----	--------	------	------	---------

装置区分	※1 の装置 特性・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要		
					定期点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備						
					月点検	目視 点検									管理 運転 点検	
全 般		清掃状態		汚れ	E	E	E	E	—	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。					
				ごみ、流木、土砂等	E	E	E	E	E	E	ごみ、流木、土砂等がないこと。					
		外観		変形	E	E	E	E	E	E	変形がないこと。					
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
扉 体		構造全体		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。					
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。					
				片吊り	—	—	M	—	—	M	異常な傾き(片吊り)がないこと。					
		致	スキンプレート	変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。					
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。					
				板厚の減少	—	—	—	—	—	M	測定結果により判定のこと。					
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。					
				溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。					
		致	主桁、補助桁	変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。					
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
				板厚の減少	—	—	—	—	—	M	測定結果により判定のこと。					
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。					
				溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。					
			ボルト、ナット	ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			Hについては打診		
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。					
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。					
		支 承 部		致	主ローラ、軸、 軸受	摩耗(ローラ外径)	—	—	E	—	—	M	摩耗がないこと。			
						摩耗(ローラ軸)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。			
						摩耗(ローラ軸受)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。			
損傷	E					E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
腐食(孔食)	—					—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。					
給油状態	E					E	E	—	—	E	油が供給されていること。油の劣化がないこと。			給脂を行うこと。		
回転状態	—					D	D	D	—	D						
致	補助ローラ、軸、 軸受			摩耗(ローラ外径)	—	—	E	—	—	M	摩耗がないこと。					
				摩耗(ローラ軸)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。					
				摩耗(ローラ軸受)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。					
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。					
				給油状態	E	E	E	—	—	E	油が供給されていること。油が劣化がないこと。			給脂を行うこと。		
				回転状態	—	D	D	D	—	D	正常に回転すること。					
吊 物 金	致	吊り金物、吊りピン	損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。						
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。						

装置区分	※1 の装 特性 ・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検	年								
					目視 点検	管理 運転 点検				点 検				
水密部		水密ゴム	変形	E	E	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	—	E	損傷がないこと。				
			劣化	—	—	E	—	—	E	劣化がないこと。				
			漏水	—	—	—	—	—	E	機能に支障がないこと。				
		水密ゴム押え板	変形	E	E	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	—	E	損傷がないこと。				
取外し戸当り	致	主ローラレール	変形	E	E	E	—	E	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	E	E	割れがないこと。				
	致	補助ローラレール	変形	E	E	E	—	E	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
		ボルト、ナット	ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	E	ゆるみ、脱落がないこと。			Hについては打診	
			損傷	—	—	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
	埋設部	致	底部戸当り	変形	—	—	—	—	—	E	変形がないこと。			
損傷				—	—	—	—	—	E	損傷がないこと。				
腐食(孔食)				—	—	—	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
溶接部の割れ				—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
致		側部戸当り	変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
致		上部戸当り	変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
		コンクリート部	コンクリートの損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			コンクリートの漏水	—	—	E	—	—	E	機能に支障がないこと。				

扉体、戸当り ローラーゲート(扉体、戸当り)

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

※2 点検・整備方法() 書きは運転時実施							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

施設名	大手ポンプ場	機器名	ゲート	番号(号機)	No.2	機種形式	ローラーゲート
-----	--------	-----	-----	--------	------	------	---------

装置区分	※1 の装 置特 性・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要			
					定期点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備							
					月点検	目視 点検									管理 運転 点検		
全 般		清掃状態		汚れ	E	E	E	E	—	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。						
				ごみ、流木、土砂等	E	E	E	E	E	E	ごみ、流木、土砂等がないこと。						
		外観		変形	E	E	E	E	E	E	変形がないこと。						
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。						
扉 体	致	構造全体		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。						
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。						
				片吊り	—	—	M	—	—	M	異常な傾き(片吊り)がないこと。						
		スキンプレート		変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。						
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。						
				板厚の減少	—	—	—	—	—	M	測定結果により判定のこと。						
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。						
				溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。						
				主桁、補助桁		変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
	損傷	E	E	E		E	E	E	損傷がないこと。								
	板厚の減少	—	—	—		—	—	M	測定結果により判定のこと。								
	腐食(孔食)	—	—	E		—	—	E	腐食(孔食)がないこと。								
	溶接部の割れ	—	—	—		—	—	E	割れがないこと。								
	ボルト、ナット		ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			Hについては打診				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。							
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。							
	支 承 部	致		主ローラ、軸、軸受	摩耗(ローラ外径)	—	—	E	—	—	M	摩耗がないこと。					
					摩耗(ローラ軸)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。					
					摩耗(ローラ軸受)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。					
					損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。					
腐食(孔食)					—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。						
給油状態					E	E	E	—	—	E	油が供給されていること。油の劣化がないこと。			給脂を行うこと。			
回転状態					—	D	D	D	—	D							
致			補助ローラ、軸、軸受	摩耗(ローラ外径)	—	—	E	—	—	M	摩耗がないこと。						
				摩耗(ローラ軸)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。						
				摩耗(ローラ軸受)	—	—	—	—	—	M	摩耗がないこと。						
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。						
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。						
				給油状態	E	E	E	—	—	E	油が供給されていること。油が劣化がないこと。			給脂を行うこと。			
				回転状態	—	D	D	D	—	D	正常に回転すること。						
				吊り金	致		損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。			
							腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。			

装置区分	※1 の装 特性 ・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検		年 点 検							
					目視 点検	管理 運転 点検								
水密部		水密ゴム	変形	E	E	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	—	E	損傷がないこと。				
			劣化	—	—	E	—	—	E	劣化がないこと。				
			漏水	—	—	—	—	—	E	機能に支障がないこと。				
		水密ゴム押え板	変形	E	E	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	—	E	損傷がないこと。				
取外し戸当り	致	主ローラレール	変形	E	E	E	—	E	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	E	E	割れがないこと。				
	致	補助ローラレール	変形	E	E	E	—	E	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
		ボルト、ナット	ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	E	ゆるみ、脱落がないこと。			Hについては打診	
			損傷	—	—	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
	埋設部	致	底部戸当り	変形	—	—	—	—	—	E	変形がないこと。			
損傷				—	—	—	—	—	E	損傷がないこと。				
腐食(孔食)				—	—	—	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
溶接部の割れ				—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
致		側部戸当り	変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
致		上部戸当り	変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
			損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
			溶接部の割れ	—	—	—	—	—	E	割れがないこと。				
		コンクリート部	コンクリートの損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
			コンクリートの漏水	—	—	E	—	—	E	機能に支障がないこと。				

開閉装置
ラック式開閉装置

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

※2 点検・整備方法() 書きは運転時実施						
X	交換	C	清掃	W	分解	E
A	調整	M	測定	T	増補	H
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外	

施設名	大手ポンプ場	機器名	開閉器	番号(号機)	No.1	機種形式	ラック式開閉器
-----	--------	-----	-----	--------	------	------	---------

装置区分	※1 の装 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要	
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検		年 点 検								
					目 視 点 検	管理 運転 点 検									
全 般		清掃状態		汚れ	E	E	E	E	—	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。				
		外観		損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。				
		塗装		損傷	E	E	E	—	—	E	損傷がないこと。				
				劣化	—	—	E	—	—	E	発錆、ふくれ、亀裂、剥離、変退色、白亜化がないこと。			判定は「機械工事塗装要領(案)・同解説」による。	
構 造 体		構造全体		振動	—	H	H	—	—	H	異常振動がないこと。				
				異常音	—	S	S	—	—	S	異常音がないこと。				
	致	フレーム		たわみ	—	—	E	—	—	E	たわみがないこと。				
				変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
				溶接部の割れ	—	—	E	—	—	E	割れがないこと。				
	ボルト、ナット			ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			Hについては打診	
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
	動 力 部	致	主電動機		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。			
異常音					—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。				
温度上昇					—	H	M	H	—	M	異常な温度上昇がないこと。				
電流値					—	E	M	—	—	M	大幅な変動がなく、定格電流値以下であること。				
電圧値					—	E	M	—	E	M	作動時の定格電圧が、±10%以内であること。				
絶縁抵抗					—	—	M	—	—	M	絶縁抵抗計にて測定を行い、1MΩ以上あること。				
内部状態					—	—		—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。				
開閉速度					—	—	M	—	—	M	開閉速度が規定値内であること。		○		
電磁制動機のすきま					—	—	—	—	—	E	ディスクのすき間が規定範囲にあること。			計測値で判定する。	
致		手動装置		作動状態	—	D	D	D	—	D	円滑に開閉操作ができること。				
				操作力	—	—	D	—	—	M	円滑に回転すること。 操作力が100N以下であること。				
制 動 部		致	制動機構 (セルフロック) 遠心ブレーキ		作動状態	—	—	—	—	—	D	扉体が降下しないこと。			
		致			外観	—	—	E	—	—	E	発錆がないこと。			
	ライニングの厚さ				—	—	—	—	—	M	ライニング厚規定以上のこと。		○		
	作動状態				—	—	D	—	—	D	自重降下すること。				
	自重降下速度の測定				—	—	M	—	—	M	6m/min以下または開閉装置の仕様とoirのこと。				
				潤滑油量	—	E	E	—	—	E	油面計の規定内であること。				
				潤滑油劣化	—	—	E	—	—	E	ひどい濁りがなく、乳白色化していないこと。				
減 速 部	致	減速機		内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。				
				振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。				
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。				
				温度上昇	—	H	H	—	—	M	異常な温度上昇がないこと。				
				漏油	E	E	E	E	E	E	漏油がないこと。				
				潤滑油量	—	—	E	—	—	E	油面計の規定内であること。				
				潤滑油劣化	—	—	E	—	—	E	ひどい濁りがなく、乳白色化していないこと。				
				内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。				

装置区分	※1 の装 特性・ 機器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検									
					目視 点検	管理 運転 点検				年 点 検				
電動部	致	電動部		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。			
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。			
				温度上昇	—	H	H	—	—	M	異常な温度上昇がないこと。			
				漏油	E	E	E	E	E	E	漏油がないこと。			
				潤滑油量	—	E	E	—	—	E	油面計の規定内であること。			
				潤滑油劣化	—	—	E	—	—	E	ひどい濁りがなく、乳白色化していないこと。			
				内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。			
動力伝達部	致	連動軸		変形	—	—	E		—	E	変形がないこと。			
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。			
	致	軸継手		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。			
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。			
				芯出し	—	—	—	—	—	M	異常な芯振れがないこと。			
				給油状態	—	—	A	—	—	A	油が供給されていること。油の劣化がないこと。			
				内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。			
扉体駆動部	致	ラックピン		摩耗	E	E	E	E	—	M	開閉装置メーカーの許容値以内であること。			
				給油状態	—	E	E	—	—	E	ラックピンにグリースが付着していること。			給脂を行うこと。
	致	ラック棒		変形、損傷	E	E	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。			
				異常音	—	—	S	—	—	S	異常音がないこと。			
保護装置	致	過負荷防止機構		作動状態	—	—	D	—	—	D	正常に作動すること。			
	致	リミットスイッチ		作動状態	—	E	D	E	—	D	設定値で正常に作動すること。			
開度計		機械式		作動状態	—	E	D	—	—	D	実揚程と指針表示が合致していること。			
				盤面の曇り	—	—	E	—	—	E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。			
振止		振止		変形、損傷	E	E	E	—	E	E	変形、損傷がないこと。			
				ラック棒との干渉	—	—	E	—	—	E	ラック棒と干渉しないこと。			

開閉装置
ラック式開閉装置

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

※2 点検・整備方法() 書きは運転時実施						
X	交換	C	清掃	W	分解	E
A	調整	M	測定	T	増補	H
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外	

施設名	大手ポンプ場	機器名	開閉器	番号(号機)	No.2	機種形式	ラック式開閉器
-----	--------	-----	-----	--------	------	------	---------

装置区分	※1 の装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要	
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検		年 点 検								
					目 視 点 検	管理 運転 点 検									
全 般		清掃状態		汚れ	E	E	E	E	—	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。				
		外観		損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。				
		塗装		損傷	E	E	E	—	—	E	損傷がないこと。				
				劣化	—	—	E	—	—	E	発錆、ふくれ、亀裂、剥離、変退色、白亜化がないこと。			判定は「機械工事塗装要領(案)・同解説」による。	
構 造 体		構造全体		振動	—	H	H	—	—	H	異常振動がないこと。				
				異常音	—	S	S	—	—	S	異常音がないこと。				
	致	フレーム		たわみ	—	—	E	—	—	E	たわみがないこと。				
				変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。				
				溶接部の割れ	—	—	E	—	—	E	割れがないこと。				
		ボルト、ナット		ゆるみ、脱落	—	—	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落がないこと。			Hについては打診	
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。				
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。				
	動 力 部	致	主電動機		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。			
異常音					—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。				
温度上昇					—	H	M	H	—	M	異常な温度上昇がないこと。				
電流値					—	E	M	—	—	M	大幅な変動がなく、定格電流値以下であること。				
電圧値					—	E	M	—	E	M	作動時の定格電圧が、±10%以内であること。				
絶縁抵抗					—	—	M	—	—	M	絶縁抵抗計にて測定を行い、1MΩ以上あること。				
内部状態					—	—		—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。				
開閉速度					—	—	M	—	—	M	開閉速度が規定値内であること。		○		
電磁制動機のすきま					—	—	—	—	—	E	ディスクのすき間が規定範囲にあること。			計測値で判定する。	
致		手動装置		作動状態	—	D	D	D	—	D	円滑に開閉操作ができること。				
				操作力	—	—	D	—	—	M	円滑に回転すること。 操作力が100N以下であること。				
制 動 部		致	制動機構 (セルフロック) 遠心ブレーキ		作動状態	—	—	—	—	—	D	扉体が降下しないこと。			
					外観	—	—	E	—	—	E	発錆がないこと。			
	致			ライニングの厚さ	—	—	—	—	—	M	ライニング厚規定以上のこと。		○		
				作動状態	—	—	D	—	—	D	自重降下すること。				
				自重降下速度の測定	—	—	M	—	—	M	6m/min以下または開閉装置の仕様とoirのこと。				
				潤滑油量	—	E	E	—	—	E	油面計の規定内であること。				
				潤滑油劣化	—	—	E	—	—	E	ひどい濁りがなく、乳白色化していないこと。				
減 速 部	致	減速機		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。				
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。				
				温度上昇	—	H	H	—	—	M	異常な温度上昇がないこと。				
				漏油	E	E	E	E	E	E	漏油がないこと。				
				潤滑油量	—	—	E	—	—	E	油面計の規定内であること。				
				潤滑油劣化	—	—	E	—	—	E	ひどい濁りがなく、乳白色化していないこと。				
				内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。				

装置区分	※1 の装 特性・ 機器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検									
					目視 点検	管理 運転 点検				年 点 検				
電動部	致	電動部		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。			
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。			
				温度上昇	—	H	H	—	—	M	異常な温度上昇がないこと。			
				漏油	E	E	E	E	E	E	漏油がないこと。			
				潤滑油量	—	E	E	—	—	E	油面計の規定内であること。			
				潤滑油劣化	—	—	E	—	—	E	ひどい濁りがなく、乳白色化していないこと。			
				内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。			
動力伝達部	致	連動軸		変形	—	—	E		—	E	変形がないこと。			
				損傷	E	E	E	E	E	E	損傷がないこと。			
	致	軸継手		振動	—	H	H	H	—	H	異常振動がないこと。			
				異常音	—	S	S	S	—	S	異常音がないこと。			
				芯出し	—	—	—	—	—	M	異常な芯振れがないこと。			
				給油状態	—	—	E	—	—	E	油が供給されていること。油の劣化がないこと。			
				内部状態	—	—	—	—	—	W	構成部品に損傷、異常な摩擦がないこと。			
扉体駆動部	致	ラックピン		摩耗	E	E	E	E	—	M	開閉装置メーカーの許容値以内であること。			
				給油状態	—	E	E	—	—	E	ラックピンにグリースが付着していること。			給脂を行うこと。
	致	ラック棒		変形、損傷	E	E	E	E	E	E	変形、損傷がないこと。			
				異常音	—	—	S	—	—	S	異常音がないこと。			
保護装置	致	過負荷防止機構		作動状態	—	—	D	—	—	D	正常に作動すること。			
	致	リミットスイッチ		作動状態	—	E	D	E	—	D	設定値で正常に作動すること。			
開度計		機械式		作動状態	—	E	D	—	—	D	実揚程と指針表示が合致していること。			
				盤面の曇り	—	—	E	—	—	E	表示窓が透明で、視認に支障がないこと。			
振止		振止		変形、損傷	E	E	E	—	E	E	変形、損傷がないこと。			
				ラック棒との干渉	—	—	E	—	—	E	ラック棒と干渉しないこと。			

除塵設備
除塵機

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	除塵機	番号(号機)	No.1	機種形式	引上げ式自動除塵機(背面降下式)
-----	--------	-----	-----	--------	------	------	------------------

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要	
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検	年	点								
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検								
全 般		除塵機全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。				
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。				
ス ク リ ー ン	致	スクリーン		腐食	E	E	E	—	—	E	支障となる腐食がないこと。				
				変形、損傷	E	E	E	E	E	E	支障となる変形、損傷がないこと。				
除 塵 機		全般		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。				
				異常音	—	S	(S)	S	—	—	異常音のないこと。				
				塗装	—	—	E	—	—	X	塗装の剥離や劣化のないこと。				
	致	減速機		潤滑油量	E	E	E	—	—	X	適正な油量であること。				
				油漏れ	E	E	E	—	—	E	油漏れがないこと。				
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。				
				振動(速度)	—	H	(H)	H	—	M	異常な振動がないこと。				
	致	電動機		フレーム温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。				
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。				
				振動(速度)	—	H	(M)	H	—	M	異常な振動がないこと。				
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。				
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。				
				電流値	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以下であること。				
				異常音	—	S	(S)	S	—	S	異常音がないこと。				
		巻上ワイヤ		摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。				
				損傷	—	—	E	—	E	E	支障となる損傷がないこと。				
	致	チェーン・スプロケット		伸び	—	—	A	—	—	A	チェーンにたるみがないこと。伸びは許容値以下であること。				
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。				
				損傷	—	—	E	—	E	E	支障となる損傷がないこと。				
	致	スクリュートークアップ		作動	—	—	E	—	—	E	滑らかに作動すること。				
				腐食	—	—	E	—	—	E	スクリュ部又は摺動レール部に錆がないこと。				
	致	レーキ及びローラ		異常、損傷	E	E	E	—	E	E	レーキガイドからローラが外れたリスクリーンバーとの噛合が乱れたりしていないこと。				
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。				
			リミットスイッチ		作動	—	E	(D)	—	—	X	確実に作動すること。			
		給油配管		グリース	E	E	E	—	—	X	グリース量は適正であること。劣化がないこと。			給脂を行うこと。	
				作動	—	E	(E)	—	—	E	作動に問題がないこと。				
				漏れ	E	E	(E)	—	—	E	漏れがないこと。				
	致	フレーム		腐食、損傷	E	E	E	E	E	E	支障となる腐食、損傷がないこと。				
	致	その他構造材		腐食、損傷	E	E	E	E	E	E	支障となる腐食、損傷がないこと。				

装 置 区 分	※1 の装 特 置 性・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
引 上 装 置	致	減速機		潤滑油量	E	E	E	—	—	X	適正な油量であること。			給脂を行うこと。
				油漏れ	E	E	E	—	—	E	油漏れがないこと。			
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。			
				振動(速度)	—	H	(H)	H	—	M	異常な振動がないこと。			
	致	電動機		フレーム温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。			
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。			
				振動(速度)	—	H	(M)	H	—	M	異常な振動がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下してないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				電流値	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以下であること。			
				異常音	—	S	(S)	S	—	S	異常音がないこと。			
		リミットスイッチ		作動	—	E	(D)	—	—	X	確実に作動すること。			

除塵設備
除塵機

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	除塵機	番号(号機)	No.2	機種形式	引上げ式自動除塵機(背面降下式)
-----	--------	-----	-----	--------	------	------	------------------

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要	
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検	年	点								
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検								
全 般		除塵機全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。				
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。				
ス ク リ ー ン	致	スクリーン		腐食	E	E	E	—	—	E	支障となる腐食がないこと。				
				変形、損傷	E	E	E	E	E	E	支障となる変形、損傷がないこと。				
除 塵 機		全般		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。				
				異常音	—	S	(S)	S	—	—	異常音のないこと。				
				塗装	—	—	E	—	—	X	塗装の剥離や劣化のないこと。				
	致	減速機		潤滑油量	E	E	E	—	—	X	適正な油量であること。				
				油漏れ	E	E	E	—	—	E	油漏れがないこと。				
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。				
				振動(速度)	—	H	(H)	H	—	M	異常な振動がないこと。				
	致	電動機		フレーム温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。				
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。				
				振動(速度)	—	H	(M)	H	—	M	異常な振動がないこと。				
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。				
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。				
				電流値	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以下であること。				
				異常音	—	S	(S)	S	—	S	異常音がないこと。				
		巻上ワイヤ		摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。				
				損傷	—	—	E	—	E	E	支障となる損傷がないこと。				
	致	チェーン・スプロケット		伸び	—	—	A	—	—	A	チェーンにたるみがないこと。伸びは許容値以下であること。				
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。				
				損傷	—	—	E	—	E	E	支障となる損傷がないこと。				
	致	スクリュートークアップ		作動	—	—	E	—	—	E	滑らかに作動すること。				
				腐食	—	—	E	—	—	E	スクリュ部又は摺動レール部に錆がないこと。				
	致	レーキ及びローラ		異常、損傷	E	E	E	—	E	E	レーキガイドからローラが外れたリスクリーンバーとの噛合が乱れたりしていないこと。				
				摩耗	—	—	E	—	—	M	異常な摩耗がないこと。				
			リミットスイッチ		作動	—	E	(D)	—	—	X	確実に作動すること。			
		給油配管		グリース	E	E	E	—	—	X	グリース量は適正であること。劣化がないこと。			給脂を行うこと。	
				作動	—	E	(E)	—	—	E	作動に問題がないこと。				
				漏れ	E	E	(E)	—	—	E	漏れがないこと。				
	致	フレーム		腐食、損傷	E	E	E	E	E	E	支障となる腐食、損傷がないこと。				
	致	その他構造材		腐食、損傷	E	E	E	E	E	E	支障となる腐食、損傷がないこと。				

装 置 区 分	※1 の装 特 置 性・機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
引 上 装 置	致	減速機		潤滑油量	E	E	E	—	—	X	適正な油量であること。			給脂を行うこと。
				油漏れ	E	E	E	—	—	E	油漏れがないこと。			
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。			
				振動(速度)	—	H	(H)	H	—	M	異常な振動がないこと。			
	致	電動機		フレーム温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。			
				軸受温度	—	H	(H)	H	—	M	異常な発熱がないこと。			
				振動(速度)	—	H	(M)	H	—	M	異常な振動がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下してないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				電流値	—	M	(M)	M	—	M	定格電流値以下であること。			
				異常音	—	S	(S)	S	—	S	異常音がないこと。			
		リミットスイッチ		作動	—	E	(D)	—	—	X	確実に作動すること。			

監視操作制御設備
低圧電動機制御盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法()書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理
○ 測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	雨水ポンプ盤	番号(号機)	No.1	機種形式	制御盤
-----	--------	-----	--------	--------	------	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	管理 運転 点検								
					目視 点検									
低 圧 電 動 機 制 御 盤		全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。			
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
	致	盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				シーケンスチェック	—	E	D	—	—	D	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
				保護継電器の動作	—	—	D	—	—	D	整定値での動作が正常なこと。			動作確認は2年毎に実施する。
		盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。			
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。			
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。			
	致	操作スイッチ		動作確認	—	H	(H)	H	—	H	動作不良、誤動作がないこと。			
				取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	E	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。 変色、接点部の荒れがないこと。			
		指示計		動作確認(零点及び指示)	—	E	E	E	—	A	零点及び指示計値が正常なこと。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		運転時間計		指示状態	—	E	(E)	E	—	E	運転時間に正確に追隨していること。			
				取付状態	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		タイマ		動作確認	—	—	D	—	—	D	設定時間で正常に動作すること。			
				設定値の確認	—	—	E	—	—	E	所定の設定値にセットされていること。			
	致	配線用遮断器		取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	—	—	E	変色がないこと。			
				開閉動作	—	—	D	—	—	D	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。			
				接続部	—	—	—	—	E	T	緩みがないこと。			

装 置 区 分	※1 の装 特置 性・ 機器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
低 圧 電 動 機 制 御 盤	致	電磁接触器		取付状態、汚れ	E	E	E	－	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	－	E	E	変色がないこと。			
				異常音	－	S	(S)	－	－	S	閉路中に異常音がないこ と。			
				動作状態	－	D	D	－	－	D	動作不良、誤動作がないこ と。			
				接触面の状態	－	－	E	－	－	E	接触面に荒れがないこと。			
				接続部	－	－	T	－	E	T	緩みがないこと。			
		計器用変成器		汚れ、腐食、過熱	－	E	E	－	E	E	計器用変圧器及び変流器 に汚れ、腐食、過熱による 変色がないこと。			
				異常音	－	S	S	－	－	S	異常音のないこと。			
				ヒューズの異常	－	E	E	－	－	E	ヒューズホルダに緩みがな いこと。			
				接続部	－	－	T	－	－	T	緩みがないこと。			
				接地線の接続状態	－	－	E	－	－	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				絶縁抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下に低下していな いこと。			
				接地抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下であること。			
		進相用コンデン サ、直列リアクトル		汚れ、振動、過熱、変形	－	E	E	－	E	E	汚れがないこと。 振動、変形、過熱による変 色がないこと。			
				異常音	－	S	S	－	－	S	異常音のないこと。			
				機器外箱の接地	－	－	E	－	－	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				接続部	－	－	T	－	－	T	緩みがないこと。			
				絶縁抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下に低下していな いこと。			
		始動器		汚れ、振動、過熱、変形	－	E	E	－	E	E	汚れがないこと。 振動、変形、過熱による変 色がないこと。			
				異常音	－	S	S	－	－	S	異常音のないこと。			
				機器外箱の接地	－	－	E	－	－	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				接続部	－	－	T	－	－	T	緩みがないこと。			
				絶縁抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下に低下していな いこと。			
		補助継電器		取付状態、汚れ、変色	－	－	E	－	－	E	取付、接続部に緩み、汚れ がないこと。 変色、接点部の荒れがない こと。			
				動作状態	－	－	D	－	－	D	動作不良、誤動作、異音が ないこと。			シーケンスチェックによる

監視操作制御設備
低圧電動機制御盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法()書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	雨水ポンプ盤	番号(号機)	No.1	機種形式	制御盤
-----	--------	-----	--------	--------	------	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	管理 運転 点検								
					目視 点検									
低 圧 電 動 機 制 御 盤		全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。			
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
	致	盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				シーケンスチェック	—	E	D	—	—	D	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
				保護継電器の動作	—	—	D	—	—	D	整定値での動作が正常なこと。			動作確認は2年毎に実施する。
		盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。			
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。			
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。			
	致	操作スイッチ		動作確認	—	H	(H)	H	—	H	動作不良、誤動作がないこと。			
				取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	E	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。 変色、接点部の荒れがないこと。			
		指示計		動作確認(零点及び指示)	—	E	E	E	—	A	零点及び指示計値が正常なこと。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		運転時間計		指示状態	—	E	(E)	E	—	E	運転時間に正確に追隨していること。			
				取付状態	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		タイマ		動作確認	—	—	D	—	—	D	設定時間で正常に動作すること。			
				設定値の確認	—	—	E	—	—	E	所定の設定値にセットされていること。			
	致	配線用遮断器		取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	—	—	E	変色がないこと。			
				開閉動作	—	—	D	—	—	D	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。			
				接続部	—	—	—	—	E	T	緩みがないこと。			

装 置 区 分	※1 の装 特置 性・ 機器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
低 圧 電 動 機 制 御 盤	致	電磁接触器		取付状態、汚れ	E	E	E	－	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	－	E	E	変色がないこと。			
				異常音	－	S	(S)	－	－	S	閉路中に異常音がないこ と。			
				動作状態	－	D	D	－	－	D	動作不良、誤動作がないこ と。			
				接触面の状態	－	－	E	－	－	E	接触面に荒れがないこと。			
				接続部	－	－	T	－	E	T	緩みがないこと。			
		計器用変成器		汚れ、腐食、過熱	－	E	E	－	E	E	計器用変圧器及び変流器 に汚れ、腐食、過熱による 変色がないこと。			
				異常音	－	S	S	－	－	S	異常音のないこと。			
				ヒューズの異常	－	E	E	－	－	E	ヒューズホルダに緩みがな いこと。			
				接続部	－	－	T	－	－	T	緩みがないこと。			
				接地線の接続状態	－	－	E	－	－	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				絶縁抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下に低下していな いこと。			
				接地抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下であること。			
		進相用コンデン サ、直列リアクトル		汚れ、振動、過熱、変形	－	E	E	－	E	E	汚れがないこと。 振動、変形、過熱による変 色がないこと。			
				異常音	－	S	S	－	－	S	異常音のないこと。			
				機器外箱の接地	－	－	E	－	－	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				接続部	－	－	T	－	－	T	緩みがないこと。			
				絶縁抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下に低下していな いこと。			
		始動器		汚れ、振動、過熱、変形	－	E	E	－	E	E	汚れがないこと。 振動、変形、過熱による変 色がないこと。			
				異常音	－	S	S	－	－	S	異常音のないこと。			
				機器外箱の接地	－	－	E	－	－	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				接続部	－	－	T	－	－	T	緩みがないこと。			
				絶縁抵抗	－	－	M	－	－	M	基準値以下に低下していな いこと。			
		補助継電器		取付状態、汚れ、変色	－	－	E	－	－	E	取付、接続部に緩み、汚れ がないこと。 変色、接点部の荒れがない こと。			
				動作状態	－	－	D	－	－	D	動作不良、誤動作、異音が ないこと。			シーケンスチェックによる

監視操作制御設備
低圧電動機制御盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法()書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	雨水ポンプ盤	番号(号機)	No.1	機種形式	制御盤
-----	--------	-----	--------	--------	------	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	管理 運転 点検								
					目視 点検									
低 圧 電 動 機 制 御 盤		全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。			
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
	致	盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				シーケンスチェック	—	E	D	—	—	D	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
				保護継電器の動作	—	—	D	—	—	D	整定値での動作が正常なこと。			動作確認は2年毎に実施する。
		盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。			
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。			
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。			
	致	操作スイッチ		動作確認	—	H	(H)	H	—	H	動作不良、誤動作がないこと。			
				取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	E	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。 変色、接点部の荒れがないこと。			
		指示計		動作確認(零点及び指示)	—	E	E	E	—	A	零点及び指示計値が正常なこと。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		運転時間計		指示状態	—	E	(E)	E	—	E	運転時間に正確に追隨していること。			
				取付状態	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		タイマ		動作確認	—	—	D	—	—	D	設定時間で正常に動作すること。			
				設定値の確認	—	—	E	—	—	E	所定の設定値にセットされていること。			
	致	配線用遮断器		取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	—	—	E	変色がないこと。			
				開閉動作	—	—	D	—	—	D	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。			
				接続部	—	—	—	—	E	T	緩みがないこと。			

装 置 区 分	※1 の装 特置 性・ 機器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
低 圧 電 動 機 制 御 盤	致	電磁接触器		取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	—	E	E	変色がないこと。			
				異常音	—	S	(S)	—	—	S	閉路中に異常音がないこ と。			
				動作状態	—	D	D	—	—	D	動作不良、誤動作がないこ と。			
				接触面の状態	—	—	E	—	—	E	接触面に荒れがないこと。			
				接続部	—	—	T	—	E	T	緩みがないこと。			
		計器用変成器		汚れ、腐食、過熱	—	E	E	—	E	E	計器用変圧器及び変流器 に汚れ、腐食、過熱による 変色がないこと。			
				異常音	—	S	S	—	—	S	異常音のないこと。			
				ヒューズの異常	—	E	E	—	—	E	ヒューズホルダに緩みがな いこと。			
				接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。			
				接地線の接続状態	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していな いこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
		進相用コンデン サ、直列リアクトル		汚れ、振動、過熱、変形	—	E	E	—	E	E	汚れがないこと。 振動、変形、過熱による変 色がないこと。			
				異常音	—	S	S	—	—	S	異常音のないこと。			
				機器外箱の接地	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していな いこと。			
		始動器		汚れ、振動、過熱、変形	—	E	E	—	E	E	汚れがないこと。 振動、変形、過熱による変 色がないこと。			
				異常音	—	S	S	—	—	S	異常音のないこと。			
				機器外箱の接地	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。 断線のないこと。			
				接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していな いこと。			
		補助継電器		取付状態、汚れ、変色	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩み、汚れ がないこと。 変色、接点部の荒れがない こと。			
				動作状態	—	—	D	—	—	D	動作不良、誤動作、異音が ないこと。			シーケンスチェックによる

監視操作制御設備
系統機器盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法()書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	系統機器盤	番号(号機)		機種形式	制御盤
-----	--------	-----	-------	--------	--	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年	点							
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
系 統 機 器 盤 (リ レ ー 型 ・ P L C 型)		全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。			
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
	致	盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				シーケンスチェック	—	E	D	—	—	D	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
				保護継電器の動作	—	—	D	—	—	D	整定値での動作が正常なこと。			動作確認は2年毎に実施する。
		盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、管体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。			
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。			
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。			
	致	操作スイッチ		動作確認	—	H	(H)	H	—	H	動作不良、誤動作がないこと。			
				取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	E	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。 変色、接続部の荒れがないこと。			
		指示計		動作確認(零点及び指示	—	E	E	E	—	A	零点及び指示計値が正常なこと。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
		タイマ		動作確認	—	—	D	—	—	D	設定時間で正常に動作すること。			
				設定値の確認	—	—	E	—	—	E	所定の設定値にセットされていること。			
	致	配線用遮断器		取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	—	—	E	変色がないこと。			
				開閉動作	—	—	D	—	—	D	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。			
				接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。			

装 置 区 分	※1 の装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検		年 点 検							
					目視 点検	管理 運転 点検								
系 統 機 器 盤 (リ レ ー 型 ・ P L C 型)	致	電磁接触器	取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。				
			変色	E	E	E	—	—	E	変色がないこと。				
			異常音	—	S	(S)	—	—	S	閉路中に異常音がないこと。				
			動作状態	—	D	D	—	—	D	動作不良、誤動作がないこと。				
			接触面の状態	—	—	E	—	—	E	接触面に荒れがないこと。				
			接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。				
	致	配線用漏電遮断器	取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。				
			変色	E	E	E	—	E	E	変色がないこと。				
			開閉動作	—	—	D	—	—	D	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。			テスト釦による動作	
			接続部	—	—	T	—	E	T	緩みがないこと。				
		計器用変成器	汚れ、腐食、過熱	—	E	E	—	E	E	計器用変圧器及び変流器に汚れ、腐食、過熱による変色がないこと。				
			異常音	—	S	S	—	—	S	異常音のないこと。				
			接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。				
			接地線の接続状態	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。 断線のないこと。				
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。				
			接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。				
		進相用コンデンサ	汚れ、油漏れ、振動、過熱、変形	—	E	E	—	E	E	汚れがないこと。 油漏れ、振動、変形、過熱による変色がないこと。				
			異常音	—	S	S	—	—	S	異常音のないこと。				
			機器外箱の接地	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。 断線がないこと。				
			接続部	—	—	T	—	—	T	緩みがないこと。				
			絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。				
	致	補助継電器	取付状態、汚れ、変色	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 変色がないこと。				
			動作状態	—	—	D	—	—	D	正常に動作すること。			シーケンスチェックによる	
		警報設定器	設定値の確認	—	—	E	—	—	E	所定の設定値にセットされていること。				
			取付状態	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。				
		UPS	汚れ、ほこり	—	—	E	—	—	E	汚れ、ほこりがないこと。				
			前面パネルLEDの状態	—	—	E	—	—	E	異常のないこと。				

監視操作制御設備
機側操作盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	ポンプゲート現場操作盤	番号(号機)		機種形式	操作盤
-----	--------	-----	-------------	--------	--	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 特 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年							
					目視 点検	管理 運転 点検							
機 側 操 作 盤		全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。		
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。		
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。		
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。		
	致	盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。 小動物等の侵入がないこと。 雨水の侵入や結露がないこと。		
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。		
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。		
				シーケンスチェック	—	E	D	—	—	D	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。		
		盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。		
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。		
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。		
	致	操作スイッチ		動作確認	—	H	(H)	H	—	H	動作不良、誤動作がないこと。		
				取付状態、汚れ	E	E	E	—	—	E	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。 変色、接点部の荒れがないこと。		
		指示計		動作確認(零点及び指示)	—	E	E	E	—	A	零点及び指示計値が正常なこと。		
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。		
		表示器・表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。		
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。		
		スペースヒータ (サーモスイッチ)		作動テスト	E	D	D	—	—	D	設定を変更し、外気温度でスイッチが入ること。		

監視操作制御設備
機側操作盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	除塵機現場操作盤	番号(号機)		機種形式	操作盤
-----	--------	-----	----------	--------	--	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 特 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検	年								
					目視 点検	管理 運転 点検				点 検				
機 側 操 作 盤		全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。			
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
	致	盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。 小動物等の侵入がないこと。 雨水の侵入や結露がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				シーケンスチェック	—	E	D	—	—	D	渋滞・誤動作がないこと。 故障信号等は、模擬信号を入力し正しく動作すること。			
		盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。			
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。			
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。			
				致	操作スイッチ		動作確認	—	H	(H)	H	—	H	動作不良、誤動作がないこと。
	取付状態、汚れ	E	E				E	—	—	E	取付・接続部に緩み、汚れがないこと。 変色、接点部の荒れがないこと。			
		指示計		動作確認(零点及び指示)	—	E	E	E	—	A	零点及び指示計値が正常なこと。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 目盛板、カバーに汚れ、破損がないこと。			
		表示器・表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	ランプテストで正常に点灯すること。			
				取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。			
			スペースヒータ (サーモスイッチ)		作動テスト	E	D	D	—	—	D	設定を変更し、外気温度でスイッチが入ること。		

機側電源設備
作業用電源盤

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名	作業用電源盤	番号(号機)		機種形式	電源盤
-----	--------	-----	--------	--------	--	------	-----

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	年								
					目視 点検	管理 運転 点検	点 検							
機 側 操 作 盤	致	全般		動作確認	—	D	D	D	—	D	正常に動作すること。			
				異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
		盤面		発錆、汚れ	—	—	E	—	—	E	発錆・汚れがないこと。			
				扉の開閉、施錠	—	—	H	—	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。			
		盤内		汚れ、異物	E	E	E	—	—	E	汚れ、異物がないこと。 小動物等の侵入がないこと。 雨水の侵入や結露がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していないこと。			
	接地抵抗			—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。				
	致	盤内器具		機器取付状態、配線状態	—	—	E	E	E	E	盤内機器の取付、筐体に緩みがないこと。 汚れがないこと。 亀裂がないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。			
				端子、端子台の状態	—	—	E	—	E	E	異物、塵埃が付着していないこと。 接続部に緩みがないこと。 過熱による変色がないこと。 絶縁物の破損、変形がないこと。			
				端子符号の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落、読取不良のないこと。			
	表示灯		点灯状態	E	E	(E)	E	E	E	正常に点灯していること。				
			取付状態、汚れ	—	—	E	—	—	E	取付、接続部に緩みがないこと。 汚れがないこと。 破損がないこと。				
	致	配線用漏電遮断器		取付状態、汚れ	E	E	E	—	E	E	取付部に緩みがないこと。 汚れがないこと。			
				変色	E	E	E	—	E	E	変色がないこと。			
				開閉動作	—	—	D	—	—	D	開閉動作及び開閉表示に異常がないこと。			テスト釦による動作
				接続部	—	—	T	—	E	T	緩みがないこと。			
		スペースヒータ (サーモスイッチ)		作動テスト	E	D	D	—	—	D	設定を変更し、外気温度でスイッチが入ること。			

系統機器設備
燃料系統

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

施設名	大手ポンプ場	機器名		番号(号機)		機種形式	
-----	--------	-----	--	--------	--	------	--

装 置 区 分	※1 の 装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検	年								
					目視 点検	管理 運転 点検				点 検				
全 般		燃料系統全般		異常、損傷	E	E	E	E	E	E	異常及び損傷がないこと。			
				異常音	—	S	(S)	S	—	S	異常音のないこと。			
				塗装	—	—	E	—	—	X	塗装の剥離や劣化のないこと。			
燃 料 小 出 槽	致	本体		ドレン抜き	—	—	A	—	—	A	水分が混入していないこと。			
				漏れ	E	E	E	E	—	E	漏れがないこと。			
				腐食	—	—	E	—	—	E	著しい腐食がないこと。			
				油量	E	E	E	E	—	E	油面計により確認し、異常に下がっていないこと。			
				内部清掃	—	—	—	—	—	E	—			
				塗装	—	—	E	—	—	X	腐食及び劣化がないこと。			
	致	油面計		取付部の緩み	—	—	H	—	—	H	緩みがないこと。			
				損傷	—	—	E	—	—	E	著しい損傷がないこと。			
				汚れ	—	—	—	—	—	C	—			
				指示状況	E	E	E	E	—	E	指示値が正常なこと。			
	致	配管・弁		漏れ	—	—	E	—	—	E	漏れがないこと。			
				腐食	—	—	E	—	—	E	著しい腐食がないこと。			
				劣化	—	—	E	—	—	E	著しい劣化がないこと。			
				塗装	—	—	E	—	—	X	腐食及び劣化がないこと。			
		通気管		位置固定の良否	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。			
				腐食	—	—	E	—	—	E	著しい腐食がないこと。			
				損傷	—	—	E	—	—	E	著しい損傷がないこと。			
				引火防止網の脱落	—	—	E	—	—	E	脱落がないこと。			
				目詰まり	—	—	E	—	—	E	目詰まりがないこと。			
	致	配管		漏洩の有無	—	—	E	—	E	E	漏れがないこと。			
				損傷	—	—	E	—	E	E	著しい損傷がないこと。			
				塗装状況	—	—	E	—	—	E	剥離や劣化がないこと。			
				腐食	—	—	E	—	—	E	著しい腐食がないこと。			
				固定の適否	—	—	E	—	—	E	緩みがないこと。			
		配管用 ビット蓋		損傷	—	—	E	—	E	E	損傷がないこと。			
	致	配管用バルブ		漏れ	—	—	E	—	E	E	漏れがないこと。			
				損傷	—	—	E	—	E	E	著しい損傷がないこと。			
				開閉機能の適否	—	—	D	—	—	D	開閉がスムーズにできること。			

装 置 区 分	※1 の装 置 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備					
					月点検									
					目視 点検	管理 運転 点検								
給 油 口 ボ ッ ク ス		本体	発錆、汚れ	－	－	E	－	－	E	水分が混入していないこと。				
			扉の開閉、施錠	－	－	H	－	H	H	ハンドル、蝶番、ストッパ等に緩みがないこと。 軽く開閉できること。 施錠・解錠が容易であること。				
			滞油	－	－	E	－	－	E	滞油がないこと。				
		液面指示計	取付部の緩み	－	－	H	－	－	H	緩みがないこと。				
			損傷	－	－	E	－	－	E	著しい損傷がないこと。				
			汚れ	－	－	－	－	－	C	－				
			指示状況	E	E	E	E	－	E	指示値が正常なこと。				
			前面パネルLEDの状態	－	－	E	－	－	E	異常のないこと。				
		給油口	蓋の開閉状況	－	－	E	－	－	E	しっかりと閉まること。				
			損傷	－	－	E	－	－	E	著しい損傷がないこと。				
そ の 他		防油提	損傷	－	－	E	－	E	E	損傷がないこと。				
			滞油	－	－	E	－	－	E	滞油がないこと。				

付属設備等 外部

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※4 傾向管理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

※2 点検・整備方法(()書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

施設名	大手ポンプ場	機器名		番号(号機)		機種形式	
-----	--------	-----	--	--------	--	------	--

装置区分	※1 の装 置・ 機 器	点検部位	機器コード	点検項目	点検方法※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検			運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検		年 点 検							
					目 視 点 検	管 理 運 転 点 検								
全般		清掃状態		汚れ	E	E	E	—	—	E	ひどい汚れ、油等の付着がないこと。			
角落し		角落し		保管状況	—	—	E	—	—	E	所定の数量があること。 損傷のないこと。			
防護柵		防護柵		変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。			
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。			
				固定部のゆるみ、脱落、損傷	E	E	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落、損傷がないこと。			Hについては打診
目隠しフェンス		目隠しフェンス		変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。			
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。			
				固定部のゆるみ、脱落、損傷	E	E	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落、損傷がないこと。			Hについては打診
金属ダクト		金属ダクト		変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。			
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。			
				固定部のゆるみ、脱落、損傷	E	E	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落、損傷がないこと。			Hについては打診
電線管		電線管		変形	—	—	E	—	—	E	変形がないこと。			
				損傷	E	E	E	—	E	E	損傷がないこと。			
				腐食(孔食)	—	—	E	—	—	E	腐食(孔食)がないこと。			
				固定部のゆるみ、脱落、損傷	E	E	E,H	—	E	E,H	ゆるみ、脱落、損傷がないこと。			Hについては打診
ハンドホール		ハンドホール		損傷	—	—	E	—	—	E	損傷がないこと。			
				亀裂	—	—	E	—	—	E	亀裂がないこと。			
				滞水	—	E	E	—	—	E	滞水がないこと。			

付属設備等
内部

設備区分	レベルⅠ	稼働形態	待機系設備
点検区分		点検実施日	
施工業者名		作業責任者	

※1 装置・機器の特性
致 致命的な影響のある機器・部品

※3 点検結果の判定基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

※4 傾 向 管 理	
○	測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

※2 点検・整備方法(() 書きは運転時実施)							
X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

施設名	大手ポンプ場	機器名		番号(号機)		機種形式	
-----	--------	-----	--	--------	--	------	--

装 置 区 分	※1 の装 置 特 性 ・ 機 器	点検部位	機器コード	点検内容	点 検 方 法 ※2						判定方法	※3 点検結果	※4 傾 向 管 理	摘 要
					定期点検		年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検	定 期 整 備				
					月点検	管理 運転 点検								
					目視 点検									
換 気 設 備		換気扇		運転状況	—	—	E	—	—	E	異常音がないこと。 各部取付ボルト等のゆるみ、脱 落等の異常がないこと。 始動・運転が円滑であること。			
		換気ファン		振動(速度)	—	—	H	—	—	M	異常な振動がないこと。			
				温度	—	—	H	—	—	M	異常な温度上昇がないこ と。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していな いこと。			
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				電流値	—	M	M	M	—	M	定格電流値以下であること。			
				異常音	—	S	S	S	—	M	異常音がないこと。			
照 明 設 備		全般		開閉器・点滅器・照明器 具 コンセント等の損傷、過 熱	—	—	E	—	—	E	錆、熱による変形がないこ と。 緩み、発熱等がないこと。 配線に亀裂がないこと。			
				器具固定部緩み	—	—	H	—	—	H	緩み、ぐらつきがないこと。			
				電線被覆の損傷	—	—	E	—	—	E	亀裂がないこと。			
				配線箇所の湿気、塵埃	—	—	E	—	—	E	汚れ、発錆がないこと。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していな いこと。			盤で測定
					—	—	H	—	—	M	異常な振動がないこと。			
空 気 調 和 設 備		室内機、室外機		振動	—	—	H	—	—	M	異常な振動がないこと。			
				温度	—	—	H	—	—	M	異常な温度上昇がないこ と。			
				絶縁抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下に低下していな いこと。			盤で測定
				接地抵抗	—	—	M	—	—	M	基準値以下であること。			
				電流値	—	M	M	M	—	M	定格電流値以下であること。			
				異常音	—	S	S	S	—	M	異常音がないこと。			
配 線 ピ ット		室内機、室外機		蓋の損傷	—	—	E	—	E	E	損傷がないこと。			
				ビット内の汚れ	—	—	E	—	—	E	汚れがないこと。			
				ケーブル	—	—	E	—	—	E	ケーブルに異常がないこと。			